

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	盛岡市家族介護者等支援事業			事業コード	0426
所属コード	066500	課等名	長寿社会課	係名	生きがい推進係
課長名	藤澤 忠範	担当者名	小川 文子	内線番号	3567
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード	1
	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード	4
	基本事業	高齢者福祉サービスの充実	コード	2
予算費目名	介護保険費特別会計 3 款 2 項 2 目 任意事業(001 - 01)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 12 年度	
根拠法令等	盛岡市家族介護者リフレッシュ事業実施要綱 介護保険法（地域支援事業）			

(2) 事務事業の概要

日帰りまたは1泊2日の日程で、寝たきり高齢者等の家族介護者の介護技術の高度化や、介護者同士の交流を図るなど、日ごろの介護生活からリフレッシュするための機会を提供する。
(盛岡市社会福祉協議会に事業委託している)

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 12 年 4 月から国の補助制度となったことにより開始された。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

在宅で介護する場合であっても、介護保険制度を適切に利用することで介護にかかる負担を軽減できることができるようになったため、当事業の中で介護保険制度の周知を図る必要がある。なお、当該事業の財源は、平成 18 年度から「県費と一般財源」から「介護保険費特別会計」となった。

参加者からは、日々の介護から開放され、家族を介護する同じ立場の方と情報交換や交流が図られる機会であることから、継続してほしいという要望が寄せられている。

参加者からは、宿泊により在宅で見ている介護家族を預けるための介護保険サービスを優先的に受けれるようにしてほしいという意見もあったが、H25 年度より日帰り開催を増やし、半日での参加も了承したところ、交流の機会を求め参加される方が増え、時間の制約が少なくなり参加しやすいとの声が聞かれている。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

家庭でねたきりの高齢者や身体に重度の障がいを持つ家族の介護に当たっている者。

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 見込	26年度 実績
A 参加者数	人	57	52	97	100	58
B 参加者実数	人	45	42	72	-	40
C 初回参加者	人	17	10	10	-	10

(3) 26年度に実施した主な活動・手順

年度実績 (24年度に行った主な活動)

日帰り (1回) 及び1泊2日 (2回) の日程で介護者同士の交流や施設見学などを行う「家族介護者リフレッシュ事業」を, 市社会福祉協議会に委託して年3回実施した。

(4) 活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)

指標項目	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 開催回数	回	3	3	3	3	3
B 内; 宿泊回数	回	2	2	2	1	1
C 内; 日帰り回数	回	1	1	1	2	2

(5) 意図 (対象をどのように変えるのか)

家族介護者の情報交換など, 心身共にリフレッシュできる機会を持つことで, 在宅介護の継続に必要な活力を養ってもらう。

(6) 成果指標 (意図の達成度を示す指標)

指標項目	性格	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 目標値	26年度 実績
A 参加者数/家庭でねたきり高齢者等 (要介護3~5)を介護している者の数×100(地域福祉課統計)	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	1.3	1.0	1.0	2	1.0
B リフレッシュできた参加者数/総参加者数×100	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	83.5	100	100	100	100
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	① 国	千円	368	288	212	386	232
	② 県	千円	185	144	106	193	116
	③ 地方債	千円	0	0	0	0	0
	④ 一般財源	千円	185	144	106	193	117
	⑤ その他(介護保険料)	千円	185	143	106	193	117
	A 小計 ①～⑤	千円	923	719	530	965	582
人件費	⑥ のべ業務時間数	時間	10	10	10	10	10
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	40	40	40	40	40
計	トータルコスト A+B	千円	963	759	570	1005	622
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

結びついている

理由：介護者へのサポート体制を整備することで、要介護高齢者の在宅生活の維持につながることから結びつく。

② 市の関与の妥当性

妥当である

理由：日常的な介護で外出することの少ない介護者自身が、介護者同士の交流の場を広げていくためにも、市がきっかけとして介護の学びや交流の機会を提供することが望ましい事業である。

③ 対象の妥当性

改善改革を行う

理由：寝たきり高齢者または重度障がい者を在宅で介護している家族を対象としていたが、介護の度合いなど不明確でわかりにくく、参加者も固定化してきたことから対象者を見直す必要があり、平成27年度要綱を改定した。

また、年3回のリフレッシュの機会に、初回参加者の状況を把握し、家族介護者のリフレッシュの機会として広がりを確認していく必要がある。

④ 廃止・休止の影響

現状で妥当である

理由：家族介護者を支援することで、在宅の要介護高齢者の生活を維持することを目的としていることから妥当である。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

向上の余地がある

その内容：制度の周知を図るとともに，参加しやすい日程・会場・開催内容にしていく。

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

公平・公正である

理由：希望する人が参加できることから対象者の選定は公平公正である。また，介護者の交流の場を市が用意することとして実施しており，現行では参加者の費用負担は想定していない。

(4) 効率性評価

事業費は必要最小限の経費であり，削減の余地はない。

人件費についても，委託業務が主な業務であり，今以上の削減は見込めない。

4 事務事業の改革案（Plan）

(1) 改革改善の方向性

関係機関と連携を図りながら制度の周知を広く行っていく必要がある。

参加者の利便を図り，日帰りの回数を増やしたり，半日のみの参加も可能とし受け入れたことで平成25年度は参加者が増えた。平成26年度は冬期間に日帰りの教室を開催したことから，参加者が減少しており，開催時期についても検討する必要がある。

開催会場の選定においては，参加者の利便を考慮しながら自宅から近い場所で交流できる機会を提供していく必要がある。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

委託先である盛岡市社会福祉協議会のみでの事業開催では，介護者の相談や継続した支援に結び付けることが困難な状況である。事業開催に合わせて，個別での介護相談が出来たり家族に助言できる専門職の従事が必要とされ，包括支援センター等協力を求める必要がある。

5 課長意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

在宅介護者の負担の軽減を図る事業として有効である。

盛岡市社会福祉協議会，地域包括支援センター等の関係機関と密接に連携し，事業内容の周知と充実を図り，参加者の増加に努める。

